

無量壽

第十二号(二〇一四年十月号)
発行 雲夢山壽命寺



今年の夏は全国的に多雨でしたが、9月末には気持ちのいい秋晴れが続きました。(2014/09/21 住職撮影)

親鸞聖人報恩講 10/25(土) 14:00、19:00 10/26(日) 7:00、10:00、13:30

今年も報恩講の季節が巡ってきました。報恩講は私たちにお念仏の道を示してくださいと宗祖親鸞聖人への感謝の思いから勤められる法たち門徒にとつては一年で一番大切な行事です。心をこめて、しっかりと勤めたいと思います。



要です。私

今年はお変則的に、初日と二日目でお二人のご講師にお出まし頂きます。



初日の二十五日は大阪府豊中市の桜蓮寺(おうれんじ)から平野正信(ひらのしんじゅん)師をお招きします。一九八〇年生まれのお若い先生です。一般家庭に生まれ育ちながら縁あつて浄土真宗に出会われ、僧侶となりましたが、それに留まらず、な

んと新しいお寺をゼロから立ち上げられ去年落慶法要を勤められました。どういう思いでそこまでされるに至ったのか、そんなお話をお聞かせ頂く中で、私たちの仏法に対する姿勢や心を見つめなおす機会にできればと思います。



翌二十六日は同じく大阪府は大阪市西成区の壽光寺(じゅこうじ)から蓼慶典(はなふさよし)師にお出ましいただき、「節談説教」と言う高座の上から時折節をつけてお話されるスタイルのご法話をいただきます。これは浄土真宗の伝統的なお説教の

形で、落語などの芸能の起こりにも大きな影響を与えたと言われます。実は尊師はこの七月に壽命寺であつた滋賀組の「十六日講」のご講師でした。その時のお参りは組内各寺院のご門徒の代表の方々が中心でしたが、皆さん大変興味深く耳を傾けておられましたので、是非、今度は壽命寺門徒の皆様にもお聴きいただきたいと、改めてお招きする次第です。

外からお寺の世界に飛び込んで新しい動きをされている平野師と、節談説教という伝統的スタイルに新たな息吹を吹き込む活動をされている尊師。好対象のお二人のお話を続けてお聴きできる法座は貴重な機会だと思います。どうかみなさま、お誘い合わせの上、多数お参りください。

【連載】門徒物知らず!? 浄土真宗の仏事作法

第2回

浄土真宗は先祖供養を否定するの？

先日あるご門徒さんからこんなことを言われまして。「お葬式や法事はご先祖様のことを偲び感謝する儀式なのに、ごえんさんや親鸞さんの話ばかりする。なんかご先祖様を蔑ろにされているように感じる。浄土真宗ってそういう教えなんか？」と。厳しいお言葉でしたが、口に出さずとも同じような疑問・違和感を持たれている方も少なくないように感じますので、今回は少しこのことについて考えてみたいと思います。

ご先祖様を仏と仰ぐ世界

まず初めにはつきりと申し上げます。浄土真宗はご先祖を蔑ろにするような教えではありません。親鸞聖人は、お念仏を頂かれた方はこの世の命を終えた瞬間に阿彌陀如来のはたらきで浄土に生まれ、そこで仏の悟りを得ると説かれています。ですから故人を仏さまと仰いでいくのが浄土真宗の先祖観であり、それは蔑ろにするということとは正反対の世界です。

もしも私の法話で先祖様を蔑ろにされているように感じられたなら、それは偏に私の力量不足によるものです。心よりお詫び申し上げます。

その上でなお申し上げなくてはならなことがあります。それは、浄土真宗の全ての法要儀式は、阿彌陀如来の本願を今生きている私が聴かせていただくということ、その願いを伝えてくださった親鸞聖人をはじめとする先人達に感謝の気持ちをあらわ

していくために勤められるのであり、お葬儀やご法事もその例外ではないということ。 「なんや、やっぱりご先祖様のことを脇に追いやるんか？」。そう訝しむ方もあるかもしれません。

お浄土がなかったら？

ではちよつと意地悪な質問をさせてください。逆に阿彌陀如来や親鸞聖人の方を脇にどけてみたらどうでしょう？ 次のご法事をお仏壇を閉めて勤めるとしたら…？

阿彌陀如来がなくても、銘銘で故人を偲んだり感謝の思いを持つことはできるでしょう。でもそれをどうやってご先祖様に届けますか？ 「そんなもん、心の中で思えば伝わるんや」と思える人はそれでいいでしょうが、私は自分にそんな念力のような特殊能力が備わっているとは思えませんので、なんとも不安です。

それに阿彌陀如来がいなければお浄土もありません。お浄土は「俱会一処」と言つて、先立たれた方々とまた一緒に相見えることができる世界、言わば命を超えた待ち合わせ場所です。それがないとしたら今ご先祖様がどこでどうしておられるか、そして自分がどこへ向かって進んでいけばいいのかわ、私には皆目見当が付きません。

私の場合、どうやら阿彌陀如来とお浄土の世界を通してしかご先祖様と繋がることも、思いを伝えることもできないようです。そう思うと自然と阿彌陀如来への感謝の思いがお念仏となつてでてきます。そしてご先祖様もまた同じお気持ちではないかと思うのです。だから私

が「南無阿彌陀仏」と唱える時、ご先祖様もすぐそばで一緒にお念仏してくださつていられるように感じるので。



イラスト：早稲田ぞよ華

親鸞聖人の御恩

しかしな疑問が残ります。先ほど自分勝手にご先祖様を偲んでも思いが伝わる確証はないと書きましたが、阿彌陀如来やお浄土も科学的に証明される世界ではありません。ならば南無阿彌陀仏で先祖様と繋がるという話も同じように不確かなことではないかと。

ここで親鸞聖人の出番です。聖人の主著「教行信証」を手にすると、その圧倒的な情報量に目を見張られます。目に見えなくとも確かに阿彌陀如来の本願が結実した世界、即ち浄土が存在するのだということを確認するために、インド・中国・日本の三国の無数の経典・書物に目を通し、それを再構築してお示し頂いているのです。

一言に経典に目を通すと言つても、聖人の頃はどこにどんな書物があるのか、まずその情報がありませんし、僅かに情報を得たらそれを読むためにははるばる野を越え山を越えて行かなくてはなりません。ワンクリックで欲しい情報を手にすることができない私たちには思い及ばないご苦労であったはず。まさに命を削るご苦労の上で、また懐かしい方と再会することができる浄土という世界があるのだということ、力

強く語られているのです。

それは私が一人胸のうちに先祖への感謝の思いを念じ「きつと伝わっただろう」と自己満足していることは、質量において全く次元が異なる世界です。そしてその質量がなければ、八百年も後の世に生きる私のもとにお念仏のみ教えが届くことはなかったはず。

こういうことで、浄土真宗の全ての法要は阿彌陀如来と親鸞聖人への報恩の心から勤められるものと申上げました。もちろんご法事はご先祖様を偲ぶ場として設けられるものです。しかしご先祖様を偲ぶことに留まらず、その先にお浄土の世界を頂くことが大切です。みなさんにとっての法事がそういう時間となるよう、私もしっかりととお勤めさせていただこうと思います。

ご家庭でも報恩講を勤めましょう!!

右に書いた通り、私たち門徒にとって親鸞聖人のご恩への感謝を表すことはご先祖さまとの繋がりにおいても大変大切な営みだと言えます。私が今お念仏に出会えたのもご先祖様がお家のお仏壇を大切に引き継いでこられたからに他ならないでしょう。そうしたことへの感謝も込めて、各家庭でも報恩講を勤めましょう。

去年からの呼びかけで、去年3軒、今年は4軒お勤め頂きました。少しずつでもこの数を増やしていければと思っています。どうやって勤めたらいいかなど、住職まで気軽にお尋ねください。